

# 越谷ゆかりの著名人

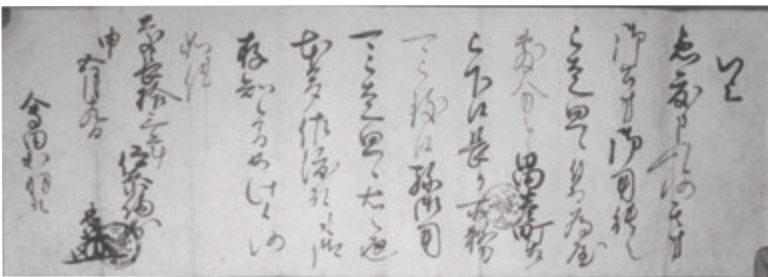
## こしがやの歴史を支えた人物館

越ヶ谷郷の開発領主

あいだ で わ すけ ひ さ  
**会田出羽資久**

(?～1619)

綾瀬川の氾濫で荒廃していた沼沢地の干拓を図り、谷中から蒲生愛宕山地先の綾瀬川まで落とし堀を掘り割った。これを出羽堀と称する。徳川家康治世のもと、越ヶ谷郷を解体し、数多くの行政村の成立に尽力した。



家康の御用を勤めた褒賞として  
屋敷地1町歩を与えることが記された伊奈備前差添書

出羽地区の開発者

あいだ しちぎ えもんまさしげ  
**会田七左衛門政重**

(1580?～1642)

関東代官頭伊奈半十郎忠治の重臣の1人として、各地の検地奉行を務めた。また、出羽地区の新田開発に尽力するとともに、村々に寺院の創立等を行い、近世の村づくりに多大な功績を残した。七左衛門村(現在の七左町)の村名は、この地を開発した会田七左衛門政重の名をとってつけられたものである。



会田七左衛門政重像(木造会田七左衛門夫婦坐像一部)

俳諧師にして方言学の祖

# 越谷吾山

(1717～1787)

越ヶ谷新町の会田家出身と伝えられている。若年より江戸の文人と交流して俳諧に精通し、のちに江戸に出て芸道の高位である「法橋」に推挙された。日本初の方言を中心とした民俗学の著書を残し、方言学の祖と評された。



越谷吾山 肖像画

漢学者兼国学者

# 渡辺荒陽

(1752～1838)

恩間村の名主の長子として生まれたが、儒学を中心に学問に熱中し、家を子に譲って江戸に転居、

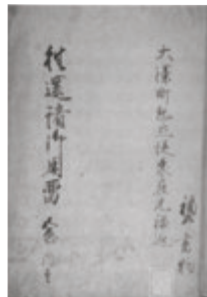
日本橋新右衛門町に塾舎「時習堂」を開き教学にあたった。のちに国学に転じ、漢文の儒学書や国学神道の随筆書など、40を超える書冊を著した。

郷土史家

# 福井猷貞

(1769?～1822)

越ヶ谷宿の本陣（幕府の高官や高家・公家・格式のある僧侶の休泊にあてられる旅籠）を営む。そのかたわら、大沢町・越ヶ谷町の地誌「大沢猫の爪」、「越ヶ谷瓜の蔓」をはじめ、越谷の歴史のみならず、日光道中宿場の歴史を知るうえで欠かせない史料を数多く残した。



本陣資料一括 (福井家文書)

故郷の窮民を救済

# 稲垣市兵衛

(1768～1837)

瓦曾根村の名主の子として生まれ、婿養子とし

て入った浅草の池田屋を継ぐと、江戸でも屈指の豪商と知られるようになった。その後、故郷の瓦曾根村の窮民救済に尽力した実父の遺志を継いで凶作に備え金銭を積み立て、天保7年（1836）の大凶作で、故郷の瓦曾根村に100人近い窮民が出た折には、この積立金から、1人につき金一両ずつを施金してこれを救った。

越谷の剣豪

# 中村万五郎有道軒

(1784～1860)

幼時より剣道を志し、清久村（現在の久喜市）と江戸麹町で道場を経営した。後に、故郷東方村の実家の敷地内に道場を開くと、門前に市が立つほどの盛況をみせ、門人は1000人を超すほどであった。



中村万五郎有道軒 肖像画

日本一の力持ち

# 三ノ宮卯之助

(1807?～1854)

三野宮村出身で、江戸後期に日本一の力持ちといわれた。日本各地に卯之助が持ち上げたときれる力石が残されており、市内では越ヶ谷久伊豆神社に1個、三野宮香取神社に4個、三野宮向佐家に1個の計6個が確認されている。



三野宮香取神社の力石

越谷が世界に誇る美術家

# 齋藤豊作

(1880～1951)

西方村の旧家齋藤家に生まれた。フランスで新印象派の画風を習得し、第7回文展に「落葉かき」と「夕映の流れ」の2点を出品し、見事褒状を

受賞。「夕映の流れ」は、代表作として東京国立近代美術館に収蔵されている。石井柏亭ら10人と共に文展洋画部門に第二科（のちの二科展）を創立した。大正4年に豊作が母校の大相模小学校に寄贈した絵画「風景」は、現在市立図書館に展示されている。

受賞。「夕映の流れ」は、代表作として東京国立近代美術館に収蔵されている。石井柏亭ら10人と共に文展洋画部門に第二科（のちの二科展）を創立した。大正4年に豊作が母校の大相模小学校に寄贈した絵画「風景」は、現在市立図書館に展示されている。



齋藤豊作遺作 「風景」

越ヶ谷順正会旗揚げに尽力

# 高橋正義

(1898～1961)

生活困窮者救済のため、昭和11年に相互扶助を目的として成立した「越ヶ谷順正会」の発起人の1人。越谷市役所の敷地内に建つ「相扶共済」の碑には「国民健康保険の発祥の地なり」と越ヶ

谷順正会の発足を讃える文が刻まれている。



「相扶共済」の碑

窮民を救った農地解放

# 関根宗輔

(生没年不詳)

大正時代前期、農村で地主制のもと農事に携わる小作人層の生活が困窮し、各地で小作争議が頻発した。増林村の関根宗助は、大正11年に時価の3割以上安い価格で自発的に田畑を小作者へ譲渡し、小作問題の解消を図った。

顔研究の文化人・画家（歯科医師）

# 山崎清

(1901～1985)

日本歯科医学専門学校を卒業後パリに留学し、

歯科と人類学の研さんを積んだ。西欧でも有名な学者で、顔の研究者としても知られ、人相学、随筆など多くの著書を残す。昭和38年に越谷市初の名誉市民となった。



山崎清

日本の植物分類学の権威

## 大井次三郎

(1905～1977)

日本産種子植物の集大成である「日本植物誌 顕花編」を昭和28年に出版し、日本の植物分類学の基礎を築いた。同著は40年に英語版も出版され、今日も植物誌の編纂に欠かすことのできない貴重な書物となっている。



「日本植物誌」

絶対を問いつづけた能楽師

## 関根直孝

(1909～1997)

18歳で能の世界に入り、大正、昭和と戦乱や復興の時代の長い歳月を、観世流の能楽一筋に歩き通した達人。ひたむきな求道と厳しい修行によって体得した芸域は、夢想的・神秘的と評されるに至った。



関根直孝

能楽シテ方観世流の重鎮

## 関根祥雪(祥六)

(1930～2017)

兄・関根直孝および二十五世観世左近元正のもとで厳しい稽古を積み、芸術祭優秀賞、日本芸術院賞、紫綬褒章、旭日小綬章などを受賞。長年にわたる自己研鑽と流儀のみならず能楽界発展への多大な功績が認められ、平成28年に観世宗家から、宗家以外では功績の顕著な能楽師にのみ許される「雪号」を授与された。



関根祥雪

参考…川のあるまち 越谷文化 第18号・第19号

越谷市史一通史上

越谷市の文化財(第12集)

# 「わたしと越谷市」



各方面で活躍する、越谷にゆかりのある著名人にご登場いただき、越谷市との関わりや思い出について語っていただきました。

(広報こしがやお知らせ版平成29年11月号～30年10月号、季刊版29年冬号に掲載したものを再編集しました)

わたしと越谷市



かじた たかあき  
梶田 隆章 さん

## PROFILE

■ 東京大学宇宙線研究所長  
1959年3月9日生まれ、東松山市出身。越谷市在住。埼玉大学を卒業後、東京大学大学院修了。理学博士。  
2015年ニュートリノ振動の発見によりノーベル物理学賞を受賞。越谷市名誉市民。

昭和60年、結婚を機に越谷に転居しました。途中何年か離れましたが、平成12年から、再び越谷に住んでいます。自宅の近くには元荒川が流れ、越谷は水辺というイメージがあります。久伊豆神社の落ち着いた雰囲気も大変気に入っています。また、旧日光街道沿いの越谷の街並みの移り変わりを興味を持って見えています。

私は子どものころから自然科学が好きでした。自然や宇宙がどうなっているのか知りたいという気持ちで、研究を続けてきた動機です。皆さんも、興味があることはとことん続けてみてください。

私がニュートリノの小さい質量を発見することができたのは、とても幸運なことに、よい師、よい仲間、よい研究プロジェクトに恵まれ、さまざまなことを吸収し自分を磨くことができたからです。

人生を決めるような大切な出会いは、いつやってくるかわかりません。広く目と心を開いて、日ごろから大切なものに出会ったときの準備をしてください。勉強することもその準備のひとつです。

このたびは越谷市制60周年、まことにおめでとうございませう。子どもたちの未来を見据えた市政をすすめている越谷市に、私も何らかの形でご協力できればと思っています。



鈴木 健 さん

PROFILE

■プロ野球解説者／元プロ野球選手  
1970年1月13日生まれ。  
南越谷小学校、富士中学校、浦和学院高校卒業。

小学1年生から高校を卒業するまでの学生時代を越谷で過ごし、越谷市には多くの思い出があります。その中でも特に心に残っているのは、市内を流れる元荒川に設けられた赤水門の近くで遊んだことです。小学生のとき、よく友達と魚釣りをしていました。今でも魚釣りは好きで、インダイ釣りに夢中になっていきます。知り合いのいる宮崎に行き、一日中仲間と一緒に釣りをします。獲れた魚を酒のさかなにするのが最高のぜいたくです。

そんな魚好きの私は、鮮魚を求めて越谷市場に家族とよく行きます。越谷市場は、鮮魚、青果などの新鮮な食材から日用品まで多くの品がそろっていて、見ているだけでも飽きません。お正月の買い出しのためにも利用しています。おいしくてボリュームのあるランチが食べられるのも越谷市場に行く楽しみの一つです。

昨年、高橋市長とお話する機会があり、越谷の魅力を再認識しました。今後、市のますますの発展のお役に立てるならイベント等にも積極的に参加させていただきたいと思っています。越谷市制60周年！誠におめでと〜ございます。

わたしと越谷市



あだち ゆみ さん  
足立 夢実 さん

PROFILE

■国士館大学シンクロナイズドスイミング部監督兼  
アーティスティックスイミング選手／  
ロンドン2012大会日本代表  
1989年2月7日生まれ。  
南中学校、浦和東高校、国士館大学卒業。

越谷市制60周年おめでとう  
ございます！

私は中学1年生のとき、越谷に引っ越してきました。学生るときはシンクロナイズドスイミング(以下、シンクロ)の練習が大変でしたが、休みのときには母と越谷レイクタウンに行ったりしました。

今は越谷を離れて1人暮らしをしています。実家に帰るとレイクタウンに行きたくなります。レイクタウンは買いたいものをすべてそろえられてとても便利です。

6年前、ロンドン2012大会代表に選ばれ激励会をして

いただいたことがあり、そのときに私の顔が描かれたケーキをいただきました。食べるのがもったいなかったのですが、家族みんなでおいしくいただきました。それがとてもうれしく大変心に残っています。

現在は、大学の学生たちにシンクロの指導をしながら、男女ペアで行うミックスデュエットに取り組み世界選手権を目指しています。

これからも越谷市から多くのアスリートが育ってほしいです。また皆さんに、シンクロに興味を持っていただけたらうれしいです。



かとう れいこ さん

PROFILE

■タレント

1969年2月19日生まれ。  
大袋北小学校、北中学校、春日部共栄高校卒業。

越谷には4歳から大学生になるまで住んでいました。越谷での思い出は数え切れないほどありますが、その中でも、しらかばと水上公園のプールで遊んだことが特に印象に残っています。

しらかばと水上公園は子どもの頃からずっとお気に入りの中で、毎年夏になると必ずと言っていいほどに通っていました。小さい頃は家族で、大きくなってからは友達同士で行っていた記憶があります。今思うと、この場所と一緒に成長してきたのかなという感じさえします。どれもキラキラした思い出ばかり！夏になったら、私のおすすめ、しらかばと水上公園にぜひ行ってみてください。

そして、今年2月にNHKB Sプレミアムで放送された地域ドラマ「越谷サイコー」では、主人公加奈子（佐久間由衣さん）の会社の先輩である「佐藤ゆり」役で出演させていただきました！地元越谷を舞台にしたドラマ。私も楽しませていただきました！

このたびは、越谷市制施行60周年おめでとうございます！私が育ってきたすてきな町。大好きです！ 越谷！

わたしと越谷市

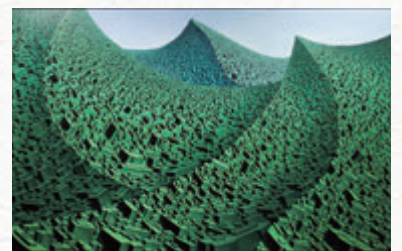


こやま さとし さん

私が最近製作している作品は、越谷で出会った桐材を使い、油絵具で仕上げた立体作品です。ヨーロッパやアメリカで発表していましたが、平成29年に開催されたニューヨークアート・エキスポに出展する機会を得て、本格的な海外進出を果たすことができました。

28年前、私は結婚を機に、神奈川県川崎市から越谷市に引っ越してきました。初めて越谷市に来たときは、広がる田園と、なんともどかな静けさに「ホッ」としたことを覚えています。そんな越谷市も今ではすっかりにぎやかな街になり、なんと言ってもレイクタウンは県外からも多くの人が集まり、都市を感じる場所になっているなと感じています。

小山さんの作品



生命都市一ねじれとゆがみー  
M150 キャンパス・油彩

PROFILE

■現代美術家  
1953年熊本県天草市生まれ。  
1980年、村上龍著「コインロッカー・ベイビーズ(上・下)」のカバー装画を手がけるなど作品は多岐に渡る。  
東越谷在住。



かさ はら まさはる さん  
笠原 昌春 さん

## PROFILE

■プロ野球(NPB/日本野球機構)審判員  
1965年3月1日生まれ。  
大間野小学校、武蔵野中学校、東京電機大学高校、東京電機大学卒業。2017年NPB最優秀審判員賞受賞。  
2,383試合出場(2017年度シーズン終了時点)。

越谷市制60周年おめでとうございます！  
私は1歳からずっと越谷に住んでいます。私には子どもがたくさんいるのですが、子どもが小中学生のときに学区が変更され、他の小中学校に通うようになりました。自分の子どもが違う学校に通う経験をしたことは、私にとってよい思い出になっています。  
越谷には少年野球のチームがたくさんありますね。現在、私はNPB審判員として野球の仕事に携わる傍ら、シーズン

オフなどの休日に、少年野球や高校野球を見に行きます。職業柄、つい審判ばかり見がちなのですが、野球観戦は楽しく、夢中になってしまいます。  
私の越谷のお気に入りの場所は、綾瀬川の桜並木です。越谷側から見るととてもきれいなんですよ！  
越谷は東京のベッドタウン化していますが、まだまだ自然が豊かで住みやすいままだと感じています。これからさらに、越谷を子どもたちが楽しめるまちにしていきたいですね。

## わたしと越谷市



むろ た きよし さん  
室田 淳 さん

## PROFILE

■プロゴルファー  
1955年7月26日生まれ。  
日本体育大学卒業。東越谷在住。(一社)日本ゴルフツアー機構が組織するレギュラーツアー6勝。(公社)日本プロゴルフ協会が組織するシニアツアー19勝(2017年度ツアー終了時点)。

プロゴルファーになる以前、就職を契機に越谷に住むようになり、40年が経ちます。体が資本の職業なので、冬場の日課として、長年元荒川沿いの遊歩道を走っています。声をかけていただいたり、街の風景が年々変わっていくのが楽しみです。  
越谷に住んで一番よかったと感じることは、「人」です。越谷の人に応援していただいたからこそ、プロゴルファーとしての今の私がありますし、これからも頑張ることができると思っています。

一筋で生きてきたので、ほかに何か趣味を見つけてしまうとゴルフがおろそかになるのではないかと心配で、気分転換のための趣味が持てません。だからこそ、シーズン中、毎週全国を飛び回っていて、越谷に帰ってくるとほっとしますね。一番リフレッシュできるのは、越谷の自宅でのんびりすることです。  
この度は、越谷市制60周年おめでとうございます。越谷市のスポーツ施設は、どれも素晴らしいものばかりですね。子どもたちがスポーツを通して夢に向かって歩んでくれれば、うれししいし、期待しています。私も越谷市の皆さんと一緒に盛り上げていきたいと思っています。





よしづき くみち さん

## PROFILE

■漫画家／イラストレーター

代表作はアニメ・実写映画化もされた「魔法遣いに大切なこと」。近年では映画「君と100回目の恋」のコミカライズや、中高生に話題の「踊ってみた」を題材とした「8畳カーニバル」などを手がける。千間台在住。

市制60周年おめでとうござ  
います。

私は30代のころ、とある連載  
が一区切りしたことを契機に、  
草加から越谷へ引っ越してきま  
した。それまでは転々と住まい  
を変えていましたが、越谷の自  
然の豊かさや不自由ない利便性  
のよさから、長く住む土地にな  
ると直感しました。

お気に入りの場所はレイクタ  
ウンそばまで続く元荒川沿いの  
道で、サイクリングルートとし  
てよく走っています。職業柄、絵  
になる場所をいつでも探してい  
ますが、この川沿いの光景は見  
どころがとて多く、創造性が  
豊かになります。



8畳カーニバル  
©よしづきくみち/講談社

現在は、週刊少年マガジンで  
の連載が一区切りして、前述の  
サイクリングに再び興じつつ、  
次回作の構想を元荒川を走り  
ながら練っています。今、とい  
うより、いつでも面白い漫画や  
い絵を描くことに夢中ですね。  
これから子どもたちが住  
みやすく、安全で自然豊かな環  
境を守っていける越谷市である  
といいなと思います。私も一作  
家として我が街のよさを伝えて  
いけたらと思います！

## わたしと越谷市

中学生までの私を振り返る  
と、初めての友達、緊張した小  
学校の入学式、暗くなるまで友  
達と遊んだ公園、熱中した少年  
野球、初恋、中学校までのあぜ  
道など、地元・越谷に密接につ  
ながる思い出がよみがえりま  
す。10代後半で進路に悩んだこ  
とも、満員電車で揺られて遠距  
離通学したことも、1人暮らし  
をして親のありがたみを知っ  
たことも、すべてが、越谷が私  
に作ってくれた大切な思い出  
です。

現在は、帰省に併せてレイク  
タウンを訪れたりしますが、子  
ども連れで安心してのんびり買  
い物ができるスポットがあると  
いうのはありがたいな、と親に

なって改めて越谷のよさを感じ  
ています。

1953年に日本でテレビの  
本放送が始まって65年。テレビ  
は、街頭テレビから一家に一台、  
白黒からカラー、ブラウン管か  
ら薄型、アナログ放送からデジ  
タル放送と、その形を変えなが  
ら今日に至ります。テレビアナ  
ウンサーという仕事柄、これか  
らインターネットとの共存でテ  
レビがどうなっていくのか楽し  
みです。そんなテレビの歴史と  
ほぼ同じ時を刻んでいる市制施  
行60年の越谷市。60は時計  
でいうとようやく1周です。ま  
た次の1周が、越谷市と市民の  
皆さんにとってすばらしい時と  
なることを願っています。



もり けいすけ  
森 圭介 さん

## PROFILE

■アナウンサー

1978年11月20日生まれ。  
千間台小学校、千間台中学校、東京学芸大学教育学部  
附属高校、一橋大学卒業。  
日本テレビ放送網株式会社所属。

越谷市制施行60周年おめでとうございます。平成15年に越谷に引っ越してきてから15年が経ちました。飽きっぽい僕ですが、鉄道写真家として毎日続けていることがあります。それは毎日1枚の写真を撮影して公開する「1日1鉄!」というブログです。過去に撮影した写真ではなく、毎日必ずその日に撮った写真を公開するので、撮影場所を探すのが大変ですが、僕にはとっておきの切り札があります。それが「いつもの公園」こと越谷市の出羽公園です。公園の横に武蔵野線の線路があるだけなので、行くと共に違う表情を見せてくれます。春には運動場の桜並木やチューリップ

フェスタのかわいい花の列が、夏には広大なひまわり畑が、鮮やかに電車を飾ってくれます。なかなかいいですね。なんといってもお勧めは秋。線路に沿って並ぶイチョウ並木は12月になると黄色く染まり、息を飲むような美しさになります。何かと忙しい今、なかなか日常に季節を感じることは少なくなりました。でもそれは受け手である僕たちが、感じようとしていないからなのかもしれません。ぜひ一度僕の「いつもの公園」を訪ねて、どんなカメラでもいいので、写真を撮ってみてはいかがでしょう？

きつとふだんは気付かない越谷のすてきな季節に出会えるはずですよ。



なかい せいや さん  
中井 精也 さん

PROFILE



中井さんのブログ「1日1鉄!」

■鉄道写真家  
テレビレギュラー出演「中井精也のてつたび」(NHKBSプレミアム)、「ヒルナンデス!沿線フォトさんぽ」(日本テレビ)、「ひるまえほっと てくてく散歩」(NHK総合)。

わたしと越谷市



ますわか  
益若 つばさ さん

PROFILE

■モデル/商品プロデューサー  
1985年10月13日生まれ。  
蒲生南小学校、南中学校、草加東高校卒業。  
20歳までを越谷市で過ごす。

生まれ育った越谷市にはたくさん思い出がありますが、一番印象に残っているのは学生時代の思い出です。  
例えば、南越谷の阿波踊りと市役所周辺で行われる花火大会。どちらも越谷市の夏の風物詩で、友達や家族と毎年見に行っていました。  
南越谷周辺も、学校が終わったあとや休日には友達と過ごした思い出の場所です。当時は「赤いくつ南越谷店」やサンシテイの1階にあった「ピザ&パスタるーばん」によく行っていましたし、ダイエー(現在のイオン)に入っていた喫茶店の紅

茶。パフェもとってもおいしくて大好きでした。  
私は現在、越谷市には住んでいませんが、実家がある越谷市には息子を連れてよく帰ってきています。息子は実家近くの公民館で私の父と卓球などをして遊んでいるのですが、私自身も昔は父とその公民館でよく卓球をしていたので感慨深いものがあります。  
越谷市は本当に住みやすくてすてきな街だと思います。そんな越谷市も今年で60年。今後ますますの発展を楽しみに、これから遊びに行きます！60周年、おめでとうございます！



ほしなつみ 星奈津美さん

PROFILE

元水泳選手／ロンドン2012大会・リオデジャネイロ2016大会競泳女子200mバタフライ銅メダリスト  
1990年8月21日生まれ。鷺後小学校、栄進中学校、春日部共栄高校、早稲田大学卒業。

越谷で生まれ育った私には、越谷での思い出が数え切れないほどたくさんあります。その中でも特に思い出深い場所を挙げるなら、久伊豆神社です。大会前には必ず祈願に訪れましたし、大会が終わって帰国するとお礼参りに行きました。初詣にも必ず行きましたね。

リオデジャネイロ2016

大会のときには、越谷市内でパブリックビューイングを盛大に開催していただき、ありがとうございました。また、こしがや田んぼアートで私を描いていたことも、とてもよい思い出です。オリンピック前は海外にいましたので母に写真を送ってもらい、励みになりました。帰国後に実際に見に行ったときは本当に感動しました。そして帰国後、越谷市民栄誉賞をいただき、多くの皆さんの前で表彰していただいたことは一生忘れません。

現在の私は水泳を引退し、フルマラソンに挑むなどの日々を送っています。まさに水から陸へとフィールドを変え、新たな挑戦をしているところですね。

そんな私ですが、これからも越谷市を皆さんと一緒に盛り上げていきたいと思っています。大好きな越谷市、60周年おめでとうございます!!

わたしと越谷市



いちかわゆきの 市川由紀乃さん

PROFILE

演歌歌手  
1976年1月8日生まれ。光陽中学校卒業。  
平成28年・29年にNHK紅白歌合戦に出場。

このたびは、越谷市制施行60周年おめでとうございます。私は中学1年生のときに越谷に引っ越してきました。いろいろと不安もありましたが、編入した光陽中学校で、よい友達とよい先生に出会えたと思います。3年生のとき、ほんの数日ですが学校に行きたくなかったです。担任の先生が毎朝迎えに来てくれて、越谷に引っ越して来てよかったなとしみじみ思いました。

休止することもありましたが、平成28年、さらに29年と、念願だったNHK紅白歌合戦に出場することができました。初出場が決まったときはうれし涙が止まりませんでした。今も越谷の実家には母が住んでいて、できるだけ顔を出すようにしています。二人でよく買い物にも出かけます。お気に入りの場所は花田苑です。和のたたずまいと四季を感じられるところが大好きです。市民の皆さんにも、同じ越谷を地元を持つ身近な存在と思っていただいて、もし街で見かけたら、気軽に声をかけていただけるとうれしいです。越谷市の今後ますますの発展を、心から願っております。